

文部科学省委託
教員養成・採用・研修の一体的改革推進事業
「教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業」報告会

－「学び続ける教員」を育成する
小学校教員養成モデルコアカリキュラムの開発－

「静岡大学作成
教科教育モデルコアカリキュラム案の報告」
磯山恭子(静岡大学)



2018(平成30)年1月20日(土)
広島大学 東千田未来創生センター

【調査研究のテーマ】
小学校の教科教育モデルコアカリキュラムの策定

教科指導に必要な知識・技能等を整理した「静大SPeC」、
小学校の教科指導に必要な資質・能力に関する調査等に
基づき、附属学校園、小学校免許教職課程を有する県内大
学・各教育委員会・総合教育センター等と協働し、これから
の教員養成に求められる小学校11教科の教科教育モデル
コアカリキュラム(4年間を貫くモデルカリキュラム、科目区
分ごとの内容モデル、コア科目の到達目標等)及びコア科
目のシラバスを策定する。



【課題設定の背景】

1. 次期学習指導要領やこれからの教員養成の方向性を見据る。
2. 平成28年度の成果として教科指導に必要な知識・技能等を体系的に整理した中等教育版「静大SPeC」案を活用する。
3. 小学校の教科指導に必要な資質・能力を多角的に調査研究を行う。
4. 各教育委員会の指導主事等及び附属学校園教員に諮って、より実効力のある小学校免許教職課程の教科関連科目のあり方を提案する。



【調査研究の特色】「静大SPeC」の概要

1. 作成の経緯
 - 1) 平成28年度、教育学研究科附属教科学研究開発センターを設置した。
 - 2) 「静大SPeC」は、「静岡大学版Subject Pedagogical Competency」の略称である。
 - 3) 各教科教育学を専門とする本学教員20名ほどを中心として、最終的には100名ほどの本学教員が検討した。
2. 「静大SPeC」の要点
 - 1) 「中等教育の教科指導に必要な知識・技能等」を具体化した。
 - 2) 各教科共通の枠組として「教科力」「教科指導力」「汎用的指導力」「教科に関わる研究力」の4項目を設けた上で、各項目を5～7程度の小項目で構成した。
 - 3) 小学校教科教育モデルコアカリキュラムの策定に援用できる。



【調査研究の特色】「静大SPeC」のフレームワーク

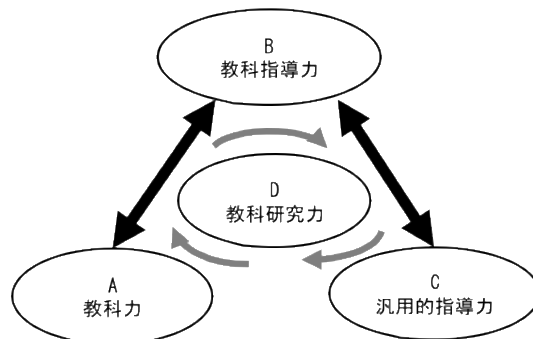


図1 4つのSPeCの関連



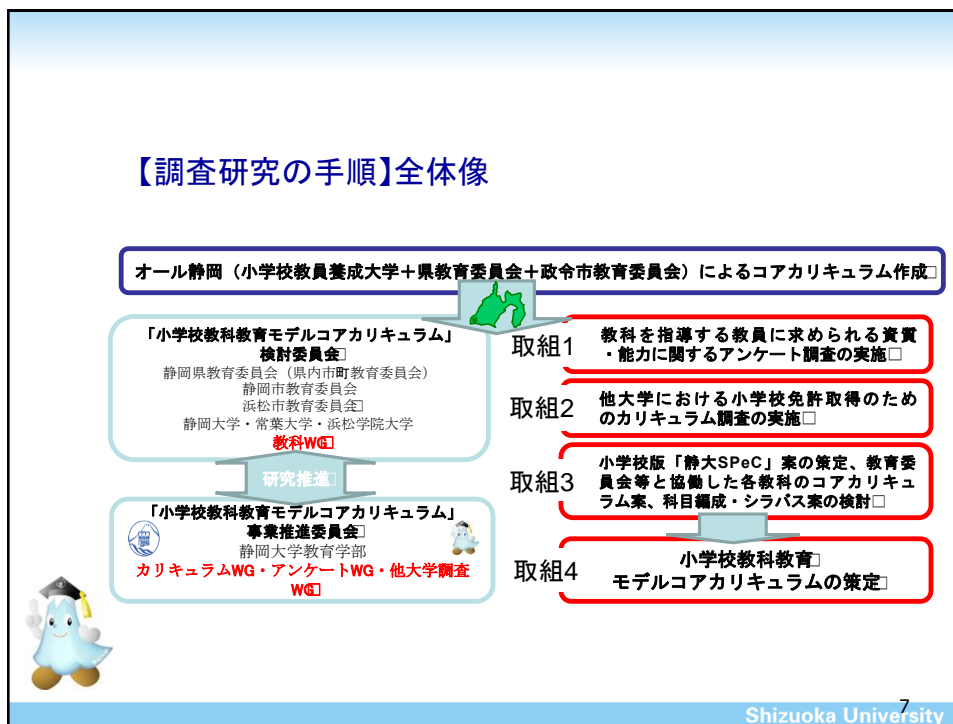
- SPeC-A **教科力**:教科内容についての本質的な見方・考え方
- SPeC-B **教科指導力**:教科指導に関わる知識・能力
- SPeC-C **汎用的指導力**:教科に特化しない指導に関わる知識・能力
- SPeC-D **教科研究力**:教科に関わる研究力

【調査研究の目的】

小学校の教科教育に焦点化し、これからの教員養成に求められる小学校教科教育モデルコアカリキュラム(4年間を貫くモデルカリキュラム、科目区分ごとの内容モデル、コア科目の到達目標等)及びコア科目のシラバスの策定を目的とする。対象とする教科は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育に加えて、英語、特別の教科「道徳」の11教科とする。



【調査研究の手順】全体像



【調査研究の手順】

取組3: 小学校教科教育モデルコアカリキュラム・ワーキンググループ(カリキュラムWG)の目的・手順

1. 小学校版SPeCの作成: 中等教育版「静大SPeC」をもとに、小学校版「静大SPeC」を作成する。
2. コアカリキュラムの作成: 附属学校園、静岡県内の小学校免許が取得できる大学・各教育委員会・総合教育センター等と協働し、「オール静岡」で各教科のコアカリキュラム案を検討する。
3. 教科WGの実施: 取組1と連動。
4. シラバスの作成: 小学校免許教職課程の科目編成・シラバス案を作成する。



【調査研究の手順】

取組1: アンケート調査・ワーキンググループ(アンケートWG)の目的

教員に求められる資質・能力の解明／協働による開発／地域のニーズの集約の方法・過程の提示: 各教科を指導する教員に求められる資質・能力に関する調査を計画・実施し、学校現場で期待される「教科を指導する教員に求められる資質・能力」を明らかにする(小学校教員に限定せず、中等学校教員も対象とする)。



【調査研究の手順】

取組1: アンケート調査・ワーキンググループ(アンケートWG)の調査対象・方法・時期・主な目的

1. 総合教育センター指導主事(インタビュー調査／9～1月): 静大SPeC案に基づく必要事項の情報収集, 静大SPeC案への反映
2. 総合教育センター指導主事・附属学校教員・協力員(質問紙調査／12月): 静大SPeCに基づく課題等の抽出, 静大SPeCの修正
3. 学部生(質問紙調査／1月): 教員に求められる資質・能力の現状把握から学部教育の再検討



【調査研究の手順】

取組1: アンケート調査・ワーキンググループ(アンケートWG)のインタビュー調査の目的

教員の養成・研修の関係者を対象に、教員に求められる資質・能力とその育成に関するインタビュー調査を実施することを通じて、小学校教科教育コアカリキュラムに求められる要点とその精緻化の方策を明らかにする。具体的には、次の事項の聴取を行う。

- 静岡大学の小学校版・中等教育版静大SPeCへの意見
- 教員の現状や教員の養成の取組みの情報
- 教員に求められる資質・能力とその育成に対する考え
- 小学校教科教育コアカリキュラムに求められる要点



【調査研究の手順】

取組1: アンケート調査・ワーキンググループ(アンケートWG)のインタビュー調査の質問事項

1. 静岡大学の小学校版・中等教育版静大SPeCに関する説明を踏まえて
2. 教員の現状や教科名教員の養成の取組みの成果と課題について
3. 静岡大学の小学校版・中等教育版静大SPeCを踏まえて、教科指導にあたって教員に求められる資質・能力について(日本の教員として/静岡県の教員として/普遍的で一般的な教員として/新学習指導要領や教職免許法に対応した教員として/小中高等学校の共通点・相違点)
4. 小学校の教科指導にあたり、採用時に教員に求められる資質・能力(学び続けることを前提として、教員のキャリア段階で初期に備えるべき資質・能力)について(3と同様)
5. 上記4の資質・能力を身に付けるために、教員養成段階で学ぶべき事項(カリキュラムで扱うべき内容)について(教科力/教科指導力)
6. 「教科横断的な学び」「カリキュラム・マネジメント」等の特定の教科に関わらない汎用的な資質・能力とそれを身に付けるために学ぶべき事項について



【調査研究の手順】

取組2: 他大学カリキュラム調査・ワーキンググループ(他大学調査WG)の目的

県内大学の聞き取り調査: 各教科の教員養成カリキュラムの現状と課題について情報交換するとともに、小学校で各教科の指導をする教員に求められる資質・能力に関する聞き取り調査を行う。(常葉大学、浜松学院大学)



【成果目標】

1. 小学校版「静大SPeC」の作成および教員育成指標、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー、教員養成スタンダード、「静大SPeC」、各科目の関係を整理した学びの系統図の作成。
2. 小学校の各教科のコアカリキュラム等の作成。
3. 各科目のシラバス作成。



【コアカリキュラムの作成過程】教職コアカリキュラムの要点

1. ミニマムエッセンシャルズであることを念頭に、いずれの大学でも実施が可能なものの作成を目指す。
2. 実務的には、シラバスの最終チェックリストの役割がある。
3. 「全体目標」「一般目標」「到達目標」の構成は変更ない。
4. 到達目標の1事項は、1授業時間ではない。静岡大学をはじめとする教員養成大学以外を想定し、多様な教員の専門性を生かす余地も残す。そのため、到達目標の総数は、2単位で10事項、1単位で6事項を目安とする。



【コアカリキュラムの作成過程】

小学校教科コアカリキュラムの作成の基本方針

1. まず、コアカリ第1案様式を作成して、小学校教科コアカリキュラムのイメージを把握する。時間に限りはありますが、その過程で考えたことをもとに、小学校教科コアカリキュラムを完成に近づけていく。
2. 静岡大学の独自性として、「全教科の構造及び特性に基づく小学校教員養成カリキュラム」「教科力と教科指導力との連携」「SPeCIに基づく授業力の育成を目指す内容構成」を意識する。
3. 外国語(英語)コアカリキュラム案やそのパブリックコメントを参照すると作業がイメージしやすく、より多くの人々が納得できる表現を採用することも大事である。そのため、議論や疑問が起こりうる箇所は、なるべく小学校学習指導要領の表現を用いることにする。
4. 静岡大学をはじめとする教員養成大学では、各学年に応じて学生の発達段階を考慮して教員養成カリキュラムが構成される。さらに、最終到達目標同一であっても、1単位×2=2単位での授業と、2単位×1=2単位の授業では、それぞれ到達目標は異なることも考えられる。これらのことは、文部科学省担当者の方は問題とされていないので、あまり気にしないこととする<文部科学省・教職課程コアカリキュラム対応表確認済み>。



【コアカリキュラムの作成過程】

参考資料に基づく具体的な改善事項

1. 各小学校教科の指導法
 - 1) 『教職課程コアカリキュラム』の「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)」(p. 6.)
 - 2) →各教科のコアカリの基盤とすることが求められている<文部科学省確認済み>。
 - 3) →(2)の学習の理論を一層明確化し、(1)(2)の理解をもとに(3)の授業設計を行うことで、各教科の特性に応じた授業設計を行うことができるようになる。と考える。
2. 各小学校教科の専門的事項
 - 1) 『外国語(英語)コアカリキュラム案』の「(1. 小学校教員養成課程外国語(英語コアカリキュラム案)) [2]外国語に関する専門的事項」(pp. 5-6.)
 - 2) →難しい提案との指摘もあるため、誰でもわかるように少し簡易化を図る必要がある。
 - 3) →外国語の教科の構造に基づき、全ての教科に当てはまらないため、小学校教員養成を意識して、なるべく全ての教科で一貫性を図れるよう工夫する必要がある。
 - 4) (1)の小学校教科書の理解、(2)の学習指導のための教材研究の基礎の習得を、「各教科の指導法」の(1)(2)と連携を図る。



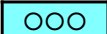


【コアカリキュラムの作成過程】

コアカリ第3案様式の指導法と専門的事項との関係

[1]各教科の指導法	[2]各教科の専門的事項
(1)学習指導要領<4>	(1)教科書<領域数>
(2)学習指導の理論<3>	(2)学習指導の教材研究<領域数>
(3)模擬授業<3>	



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
教科教育コアカリキュラム作成上の工夫と留意点

1.  : 内容事項のポイント。
2.   : 議論を経て修正した内容事項のポイント。
3. 黒字:『教職課程コアカリキュラム』と同様。
4. 赤字:『教職課程コアカリキュラム』を修正。
5. オレンジ(下線なし):各教科名をそのまま入れる箇所。
6. オレンジ(下線あり):各教科の特性に応じて適切な表現を入れる箇所。
7. 青字: 静大SPeCを選択して入れる箇所。



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
全体目標

教職課程コアカリの「各教科の指導法」做って作成。

全体目標:

- 背景となる学問領域と関連させて、学習指導要領に示された小学校各教科の目標、内容及び内容の取扱い、指導計画の作成について理解する。
- 小学校各教科の指導方法に関連させて、背景となる基礎的な学習指導に関する知識・技能を身に付ける。
- 小学校各教科の授業設計を行い、小学校各教科の学習指導案をもとに授業場面を想定することを通して、授業を実践するための基礎を身に付ける。



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
一般目標(1)

(1)学習指導要領に関する知識
小学校各教科の目標、内容、指導計画の作成及び内容
の取扱いの理解

一般目標:

背景となる学問領域と関連させて、学習指導要領に示された小学校各教科の目標、内容、指導計画の作成及び内容の取扱いについて理解する。



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
到達目標(1)

- 1) 教科の特質、教科の目標:小学校各教科の役割とその性格を踏まえて、学習指導要領に示された小学校各教科の目標、育成を目指す資質・能力及び各教科的な見方・考え方について理解している。(SPeC-A,B)
- 2) 教科の内容:小学校各教科の内容構成の把握のもとで、学習指導要領に示された小学校各教科の内容及び内容事項について理解している。(SPeC-A,B)
- 3) 教材開発・授業設計の視点:背景となる学問領域と関連させて、学習指導要領に示された小学校各教科の個別の内容事項について、教材開発及び授業設計に求められる視点を理解している。(SPeC-A,B)
- 4) 指導計画の作成及び内容の取扱い:小学校各教科の授業設計及び指導方法の留意点として、学習指導要領解説に示された小学校各教科の指導計画の作成及び内容の取扱いについて理解している。(SPeC-A,B)



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
一般目標(2)

(2)学習指導の背景となる知識及び技能
小学校各教科の学習指導に関する知識及び技能

一般目標:	小学校各教科の指導方法に関連させて、背景となる基礎的な学習指導に関する知識及び技能を身に付ける。
-------	--



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
到達目標(2)

- 1) 発達論・学習論:小学校各教科の指導方法に関連させて、子どもの認識、思考及び学力等の発達論や、問題解決学習等の学習論を理解している。(SPeC-A,B)
- 2) 指導論:小学校各教科の指導方法に関連させて、授業設計に適切な指導方法の選択、情報機器、地図帳、統計、年表等の教材及び資料の効果的な活用、小集団学習等の学習形態の設定や、他教科との関わり等の指導論を理解している。(SPeC-A,B,C5)
- 3) 学習評価:小学校各教科の指導方法に関連させて、学習評価の基礎的な考え方を理解している。(SPeC-A,B,C3)



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
一般目標(3)

(3)指導的実践力
小学校各教科の授業設計及び授業実践力

一般目標:	小学校各教科の授業設計を行い、小学校各教科の学習指導案をもとに授業場면을想定することを通して、授業を実践するための基礎を身に付ける。
-------	--



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】
[1]小学校各教科の指導法【2単位程度を想定】の
到達目標(3)

- 1) 授業づくり:小学校各教科の授業設計を行い、小学校各教科の学習指導案を作成する基礎的な技能を身に付けている。(SPeC-A,B)
- 2) 模擬授業:子どもの認識、思考及び学力等の実態に対して、効果的な指導方法を取り入れる授業場면을想定して、小学校各教科の模擬授業を行うことができる。(SPeC-A,B)
- 3) 振り返り:小学校各教科の模擬授業の振り返りを通して、模擬授業の成果と課題を把握し、授業改善の視点を身に付けている。(SPeC-A,B)



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】

【2】小学校各教科に関する専門的事項

【1単位程度を想定】の全体目標

教職課程コアカリには、専門的事項の記述がないため、英語コアカリの「【2】外国語に関する専門的事項【1単位程度を想定】」の内容を見ながら作成。ただし、教職課程コアカリと同様に「全体目標」「一般目標」「到達目標」で記述した。）

全体目標:



- 小学校各教科の授業実践に求められる基礎的・基本的な小学校各教科の知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を、授業場面を意識しながら身に付ける。
- 小学校各教科の授業実践に求められる小学校各教科の学習指導のための教材研究等に必要な知識及び技能を身に付ける。

【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】

【2】小学校各教科に関する専門的事項

【1単位程度を想定】の一般目標(1)

(1)教科に固有の資質・能力

小学校各教科の知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等

一般目標:



小学校各教科の授業実践に求められる基礎的・基本的な小学校各教科の知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を、授業場面を意識しながら身に付ける。

【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】

[2] 小学校各教科に関する専門的事項

【1単位程度を想定】の到達目標(1)

- 1) 教科の領域・項目・分野1に関する資質・能力: 授業実践に求められる基礎的・基本的な教科の領域・項目・分野1についての知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を身に付けている。(SPeC-A)
- 2) 教科の領域・項目・分野2に関する資質・能力: 授業実践に求められる基礎的・基本的な教科の領域・項目・分野2についての知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を身に付けている。(SPeC-A)
- 3) 教科の領域・項目・分野3に関する資質・能力: 授業実践に求められる基礎的・基本的な教科の領域・項目・分野3についての知識及び技能、見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を身に付けている。(SPeC-A)



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】

[2] 小学校各教科に関する専門的事項

【1単位程度を想定】の一般目標(2)

(2)教科に固有の背景となる知識及び技能

小学校各教科の学習指導のための教材研究等に必要な知識及び技能

一般目標:

小学校各教科の授業実践に求められる小学校各教科の学習指導のための教材研究等に必要な知識及び技能を、授業場面を意識しながら身に付ける。



【教科教育コアカリキュラム:コアカリ第3案】

【2】小学校各教科に関する専門的事項

【1単位程度を想定】の到達目標(2)

- 1) 教科の領域・項目・分野1に関する背景となる知識及び技能：
授業実践に求められる基礎的・基本的な教科の領域・項目・分野1についての教材研究等に必要な知識及び技能を身に付けている。(SPeC-A,B)
- 2) 教科の領域・項目・分野2に関する背景となる知識及び技能：
授業実践に求められる基礎的・基本的な教科の領域・項目・分野2についての教材研究等に必要な知識及び技能を身に付けている。(SPeC-A,B)
- 3) 教科の領域・項目・分野3に関する背景となる知識及び技能：
授業実践に求められる基礎的・基本的な教科の領域・項目・分野3についての教材研究等に必要な知識及び技能を身に付けている。(SPeC-A,B)



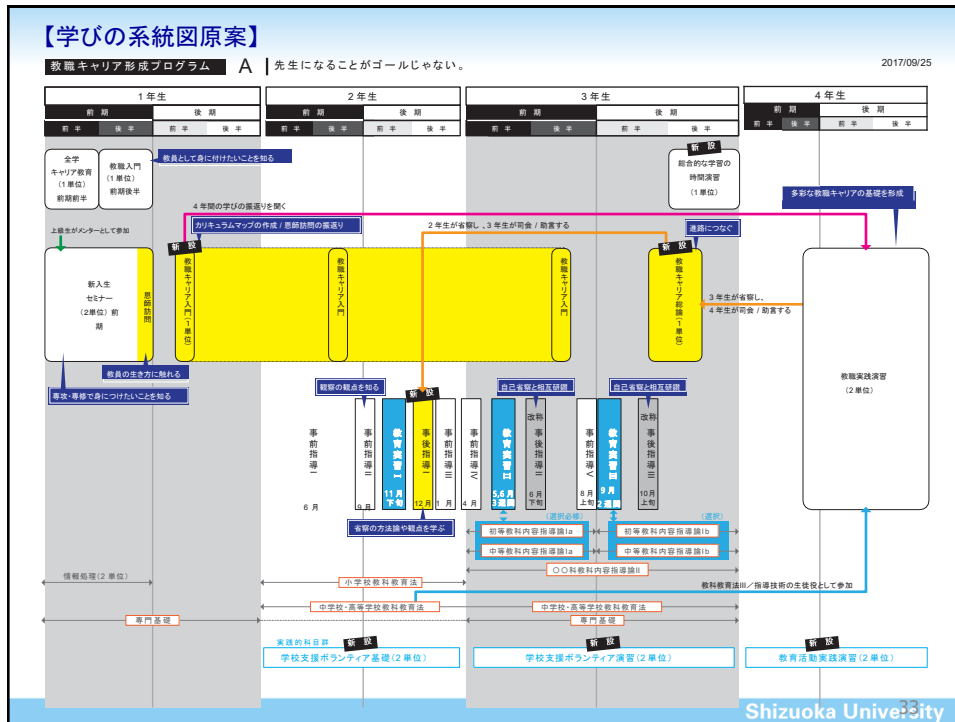
【取組1: アンケート調査の成果】

**静大SPeC, コアカリキュラム, シラバスに対する主な意見
(総合教育センター指導主事・附属学校教員等)**

	社会科	算数科
静大SPeC	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解力、単元を見通す力が一番大事との意見が共通している。 ・地域の問題を追究する社会科の面白さの理解が重要である。地域社会を把握する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価」(観点別評価)に関わる内容を盛り込む必要がある。 ・B-1の「学校カリキュラムに関する体系的理解」に対する賛同が多い。
コアカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね好評であり、特に、[1](2)のうち、1)の発達論・学習論は大切な観点(学び)である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね好評であり、特に、[1](2)のうち、1)の発達論・学習論と2)指導論は非常に大切な観点(学び)である。
シラバス	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の設定や把握のための指導方法への取り組みに共感できる。 ・授業の前半にALを位置づける方法もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態を把握するツールとして、講義に全国学力・学習状況調査が位置づけられていることはよい。



(4) 静岡大学作成 教科教育モデルコアカリキュラム案の報告



【参考文献・資料】

1. 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会『教職課程コアカリキュラム』文部科学省、2017年11月。
2. 『外国語(英語)コアカリキュラム案』文部科学省、2017年7月。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siry_o/attach/1388110.htm)
3. 日本教育大学協会『教員養成カリキュラムの到達目標・確認指標の検討』教員養成カリキュラムの到達目標・確認指標の検討、2007年3月。
4. その他各学会の関連情報。
5. 静岡大学教育学部『県・政令市・国私立大学の連携による「静岡版教員育成指標」のモデル化に関する調査研究』(平成28年度文部科学省委託「総合的な教師力向上のための調査研究事業」(テーマ3)報告書)、平成29年3月。
6. 静岡大学大学院教育学研究科附属教科学研究開発センター『中等教育における教科指導に必要な知識・技能等—静岡SPeC—』2017年3月。

